



スキーのチェック
スキーのねじれ、滑走面のキズ、またピンディングに不備がないかなどをチェック。



スキーを固定
パイプを使い、スキーをしっかりチューンナップテーブルに固定する。



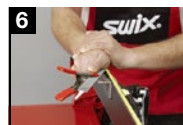
フラットチェック
スチールスクレーパーでチェック。フラットでなければマシンにかける必要がある。



ベースエッジのベベリング
ファイルとベースエッジベベルガイドを使って、滑走面側のエッジをベベリングする。



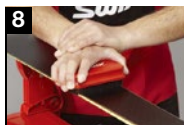
ポーターを削る
次の行程のサイドエッジ研磨で、邪魔になるポーターをポーターカッターで削る。



サイドエッジの研磨
ファイルとファイルガイドを使用し、サイドエッジの研磨を行う。



バリ取り
オイルストーンまたはガムストーンで滑走面およびサイド側のエッジをこすってバリを取る。この時、角に直接当ててしまうとエッジが丸くなってしまうので、絶対に当たらないこと。なお、直接エッジの角に当てないためには、ファイルガイドを使用して作業を行うと良い。



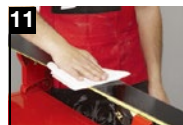
リフレッシュニング
スチールやブロンズブラシでトップからテールに向かって掻き出すようにブラッシングする。



ファイバーテックスでケバ取り
ファイバーテックス粗目で滑走面の細かいケバを取る。



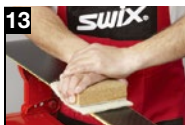
滑走面のクリーニング
ベースクリーナーでクリーニング。



ファイバーレーンで拭く
ファイバーレーンを使ってベースクリーナーを拭きとり、表面の細かいゴミを取り除く。



ブラッシング
スチールまたは、ブロンズブラシでブラッシング。ストラクチャー内に残った不純物を取り除く。



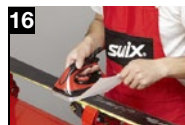
ファイバーテックス
ファイバーテックス粗目で滑走面をスムーズにする。



フィニシングパッド
微量のチリ、ブラッシング等で起きた静電気を取り除く。



ワックスをたらす
ワックスアイロンでワックスを溶かしてワックスをたらす。



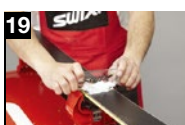
ワックスをのばす
アイロンにファイバーレーン布を挟みワックスが液状になるまで伸ばす。



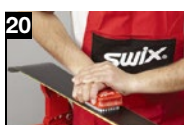
サイドにたれたワックスを取る
マルチスクレーパーで、サイドにたれたワックスを乾かないうちに取り除く。



スクレーピングの前に
スクレーパーは角が丸まっていると効率良くスクレーピングができないので、スクレーパーシャープナーで目立てをしてスクレーピングする。



スクレーピング
スキーを室温で冷やし（最低30分）、スクレーピング。



ブラッシング
ワックス粗削り用ブラシ、仕上げ用ブラシの順で滑走面をブラッシング。電動ドリルと組合せて使うロトブラシは、効率的ブラッシングが行なえる。



ワックスの仕上げ
ファイバーテックスポリッシュで滑走面を軽いタッチで仕上げます。



フィニシングパッドで最終仕上げ
フィニシングパッドでワックスの粉、ブラッシングで発生した静電気を取り除く。その後セラフ ワックスへ

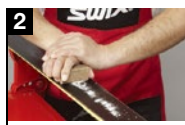
セラフのワックス方法

セラフをワックスする前に、コンディションに合った滑走ワックスをSWIXセラフノバシステムより選定し、ホットワックスする。定着後スクレーピング&ブラッシングで仕上げた後、次のドライワックス又は、ホットワックス方法のいずれかでワックスする。

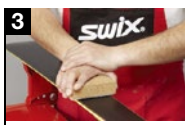
ドライワックス方法（生塗り）



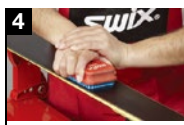
セラフを塗布する
パウダー、ソリッドは行程 ① へ。スプレーは行程 ② へ。HVC は塗ってのばして終了。



コルクでのばす
コルクの摩擦熱を利用してすり込む。



ポリッシャーでなじませる
セラフ専用ポリッシャーで滑走面全体になじませる。



ブラッシング
ナイロン、馬毛またはナイロンポリッシュの順でブラッシングする。



フィニシングパッドで仕上げ
フィニシングパッドで余分なセラフと静電気を取り除く。

セラフパウダーのホットワックス方法（焼付）

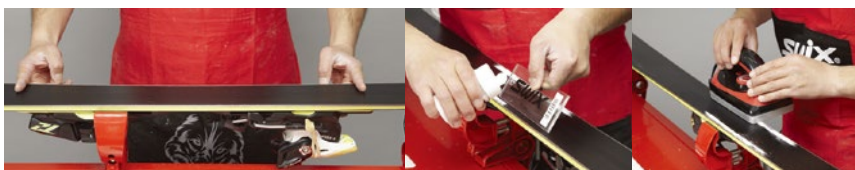
セラフパウダーは、長距離を滑走する時や雪の結晶が硬い氷粒になったコンディション、汚れた雪の場合等の条件下では、アイロンがけする事により、しっかりと滑走面に付着し長時間効果を発揮する。

パウダーを振り掛けた後、アイロンをトップからテールに向かって一定方向に軽く押し当て、パウダーを定着させる。その後ドライワックスの ②、③ の行程で仕上げる。

ご注意

*セラフは 300℃ 以下で保たれれば無害ですが、165℃ から化学変化を始め、その物質的性質が変わります。密室で 165℃ 以上の高温の物質に長時間触れると、発生したガスが空気中の許容濃度を超える場合も考えられますので、ホットワックスの際、換気には充分注意して下さい。またワックスの際、タバコ、ストーブ、バーナー等の火気は避けて下さい。
*セラフは、オゾン層を破壊するといわれる種類のフッ素化合物にはなりません。

ベースバーン対処方法



※「ベースバーン」アルペンスキー、スノーボードのエッジ脇の滑走面が硬い雪の結晶によって約 1cm 幅にわたってケバ立つ現象。

カービングの角付けテクニックが引き起こすエッジ際の大きな摩擦や、硬い雪の結晶で起こるベースバーンを防ぐために、ピンディング前後約 10cm の滑走面エッジ脇に約 1cm 幅で CH3X を塗る。エッジ脇約 1cm の所に左右真のようにスクレーパーを利用して、パウダーを振りかけ、アイロンを軽く上から押し当てて、熱で滑走面を柔らかく注意しながら滑走面に付着させる。